

「都度」考

A Note on “Tsudo”

山西 正子
Masako YAMANISHI

Keywords : Tsudo, Adverb, Abbreviation

キーワード : 「都度」、副詞、省略

【はじめに】

本稿は、副詞的用法の「都度」について考察する。

稿者の語感では、「都度」は、「その都度」や「帰郷の都度」「上京する都度」のごとく、修飾語とともに使用される。しかし、その使用状況に、近年、変化の兆しがみられるのではないか。すなわち、「毎回」の意味での、単独の副詞的用法に接する機会が複数あり、看過できないと考えるにいたったのである。

このことは、すでに、辞書に「慣用になじまない」との記述があり、インターネット上でも「違和感がある」旨の話題提供がされている。この用法が今後定着するか否かは推測できないが、少なくとも、過去の状況について検証しておくことに意義はあろう。

現時点の結論としては、一般的に「その都度」あるいは「～の都度」（以下、「～する都度」を含む）というかたちで使用されていたものが、「その都度」が大多数を占めるようになり定型句化した、そして最終的に「その」を省略するに至った、との仮説を提示することになる。

なお、漢字表記の例が多いので、以下、引用する原文がかな書きの場合を除き「都度」とする。また、原文の句読点に限って形状を変更したところがある。

あわせて現代語は、「基本」「結果」「正直」など、これも稿者の語感からいえば、「基本的に」「結果として」「正直に言えば／なところ」であったものが、それぞれ、単独で副詞用法を獲得しているといえる。

さらには、稿者自身、「結局、失敗に終わった」といいながら、これが「結局は」「結局のところ」の省略形であることに思い当たる。

これらの、省略された語形についても、若干、言及する。

【内容】

0. 問題提起

- 0.1 問題点—違和感をもたらすもの
- 0.2 インターネットの状況
- 0.3 辞書の記述
- 0.4 関連事項

1. 現代の用法—「朝日新聞」データベースによる

2. 20世紀までの用法

- 2.1 雑誌『太陽』のばあい—「ひまわり」検索システムによる
- 2.2 1900年前後の文学作品における状況
- 2.3 20世紀までの状況

3. まとめ

- 3.1 「その都度」への傾斜
- 3.2 漢語と副詞
- 3.3 推論

0.1 問題点—違和感をもたらすもの

稿者が違和感を覚えた用法は以下のごとくである。

- (1) 委員会の先生方には、都度、ご連絡します。

(2013.3.6 大学における会議の発言：部長職50歳代女性)

- (2) 本日掲載の「出掛けてみよう」には、春の訪れを告げる花が並ぶ。原則（稿者注：動植物表記の原則はカタカナ）に基づくご紹介だが、「片栗」「雪柳」とすれば、その花の趣や由来も浮かび上がる。あるようでない正解。都度、判断に迷う。

(2013.2.27 神奈川新聞24面「デスクノート」)

- (3) アルミホイルを敷いた天板に商品を並べます。（アルミホイルはつど取りかえてください。）
(冷凍食品・ミートオムレツの外装に印刷された調理法説明文)

しかるに、稿者の語感からいって、上記（1）（2）（3）は「違例」であり、現代語の一般例としては、以下の（4）（5）をあげたい。

- (4) 孫への教育資金は、これまでも学費がかかる時にその都度あげる場合は税がかからなかった。
(2013.2.8 朝日新聞5面「アベノミクスって、なに？」)

- (5) 麦茶ポットには麦の澱粉等が付着しますので、ご使用の都度、必ず容器を洗浄してく

ださい。

(麦茶パックの商品説明文)

なお、稿者は、(1)のような口頭語での、単独の「つど」には、執筆時点の2013年10月3日現在、接していない。

0.2 インターネット上の状況

0.2.1 インターネット上の発言

上記(1)(2)(3)は、特殊なのか、あるいは、稿者の常識外で一般化しているのかを知るために、インターネットを検索したところ、すでに、指摘のあることが分かった。投稿者は、違和感を感じつつも、「最近見かけるようになった」と明言している。

以下、Yahooより、2013年6月30日に確認したものを示す。「黒tobiの黒々日記」投稿は2011年4月22日付である。

「都度」ってやつ。

辞書をひいても用法までははっきりしないので確認できないのですが、私は最近見かけるようになった或る用法に、とても違和感があります。

「〇〇については、都度確認しましょう」「何らかの変更については、都度連絡します」「都度清算してください」など。

私の感覚では「その都度」「入金される都度、手数料をとられる」「ほんのちょっとの手助けをする都度、丁寧に令状をくれる」などなど、「〇〇の、〇〇する」が先行しないとおかしいと思うのです。「どういう都度だよ？」と思うのです。

そういう意味で「変更」の例については「変更があったらその都度」の省略と考えればグレイかな、とも思いますが。

すなわち、インターネット投稿者の周辺には、2011年の時点で副詞的用法の「都度」があり、稿者も、神奈川新聞・・・地方紙ではあるが日刊で、神奈川県内では有力なメディア・・・の記者署名原稿や、大手食品メーカーの表示で確認しているのであり、「ひそかなる力」を持ち続けている・・・今後の生命力は未知ながら・・・と考えたい。

0.2.2 Ciniiの状況

ここで、別に、稿者もインターネット検索を試みた。すなわち、Ciniiの論文検索リストにおける文字列「都度」の出現状況である。

その結果、上記「黒tobiの黒々日記」の記述のとおり、副詞的用法の「都度」は、研究者の中で、使用されていることを知るにいたった。

2013年9月24日16時現在、「都度」を入力すると、261件の論文にヒットする。

中には同一論文が再録されることもあり、250件前後と考えてよい。

多くは、(6)(7)のように、「その都度」「～の都度」であり、稿者にとって違和感はない。

- (6) 廃寺の要因を過疎問題や檀家の意識変化など、社会環境の変化と捉えていては生産的な議論には至らない。社会環境の変化は、常に起こることであり、長い歴史を持つ寺院はその都度、乗り越えてきた問題である。

(星野元興「真宗寺院にみる廃寺の現状：鹿児島県、富山県、広島県の事例から」
『地域政策科学研究10』2013.3・下線稿者、以下同じ)

- (7) 実現すべきサービスの理念として、改正の都度挙げられてきた「住み慣れた地域で、生活の継続性を維持」できることは高齢者にとって誰もが望むことであり、この理念に応える介護保険サービスが期待されている。

(浅野葉子ほか「介護老人施設の入退所状況と地域における役割」
『藤女子大学QOL研究所紀要 7 (1)』2012.3)

しかし、副詞的用法の「都度」も、散見されるのであった。

- (8) コースウェアの検査機能を持ったオーサリング：LAS (Learn up Authoring System) の開発を行った。〈略〉コースウェアの作成過程が都度検査し確認を取りながらの作業となるため手戻り作業の減少も期待できる。

(森田晃好「コースウェアの検査機能を持ったオーサリング：LAS (コンピュータの教育利用)」『日本教育情報学会年会論文集 6』1990.7)

- (9) このような状況において、グループ内で都度発生する問題点に対し早急に対応するためには、既存のコミュニケーション手段だけでは困難である。

(田中 隆ほか「プロセスコントローラ群を統括する制御統括システムの開発」『全国大会講演論文集』・情報処理学会 1993.9)

- (10) 国内事例にはこのような変化に対応できるように当初からマスタープラン (全体計画) にそれらが盛り込まれているものもあるが、殆どは都度の対応となっている。

(柴崎 恭秀「持続可能なキャンパス計画の考察と提案：工学院大学八王子キャンパス・スチューデントセンター設計プロポーザルを通して」
『会津大学短期大学部研究年報 63』2006.2)

のように、情報学や建築学の分野での使用が確認できる。

また、『雑誌レジャー産業資料42』の論題として、「都度払いスクール」があった(2009.7)。経営学の分野でも使用されていたことが分かる。

そして、インターネット上でも「都度会員」「都度払い」「都度契約」など、経営活動関連の語が見られる。

すなわち、稿者が詳しく知らなかっただけで、「黒tobiの黒々日記」の指摘のとおり、修飾語を伴わない「都度」は、厳然として、存在しているのであった。Ciniiでは、上記(8)の、1990

年から確認でき、20年以上、生き続けているのである。

むろん、最近の論文も使用している。

- (11) 本論文では、特に質の変化として、対応内容を急遽または都度変化させることが最頻かつ重要であることを顧客企業から教わり、対応するシステム要件を整理し開発を実践したので、この活動について述べ、変化に追従するための業務要件定義の進め方を提案する。

(「山本修二ほか「市場・顧客・ビジネスの変化へ「応変」するコンタクトセンタ」

『情報処理学会デジタルプラクティス 2(3)』2011.7)

0.3 辞書の記述

あらためて、辞書を確認する。

0.3.1 『日本国語大辞典』二版(2001)によれば、

つど【都度】〔名詞〕そのたびごと。毎回。

であり、以下の2例が示され、これ以上の記述はない。

* 日本開化小史(1877-82)〈田口卯吉〉一・二「此等は皆武夫党の乱にして、其都度朝廷の危き事、実に浮雲の風に漂へるが如くなりしが」

* 春泥(1928)〈久保田万太郎〉冬至・三「おもひ返す都度(ツド)、かれは菱川をうらんだ」

0.3.2 『大言海』(『新編大言海』2001による)では、

つど〈副〉「都度」 其度毎ニ。毎度。毎回。「其都度」「事アル都度」

とあるのみである。『稿本日本辞書言海』(1979)にも特段の指摘はない。

0.3.1、0.3.2とも簡単な記述で、品詞の扱いは、「名詞」と「副詞」と、異なっている。本稿では、品詞につき明確な判断ができないので、冗長ながら「副詞的用法」とした。

0.3.3 しかるに、看過できない記述があった。すなわち、『明鏡国語辞典』第二版(2010年11月)である。以下に引用する。

つ-ど【都度】〈名〉〈上に連体修飾を伴って〉ある物事をする、そのたびごとにの意を表す。「上京する一立ち寄る店」「その一使用料を払う」〔語法〕近年「その都度」に代えて、「条件が異なります。都度ご相談ください」などと使う向きがあるが、慣用になじまない。(下線稿者)

本書の初版は2002年12月に刊行されているが、そこでは、このような指摘はなされていなかった。編者はこの8年間の「都度」の変化を確認し、さらに「慣用になじまない」との判断

をしたのである。

0.3.4 なお、「都度」は見かけ上は漢語形式であり、漢和辞典も確認しておく必要がある。

『大漢語林』（1992 大修館書店）では、

【都度】ツド そのときどき。そのたびごと。

としか見られない。

『大漢和辞典』（縮刷版1968 大修館書店）であっても、「都」の項目では、平安時代の人名「都良香」など合わせて244の熟語を説明するが、「都度」については、

其のときどき。其のたびごと。

とするのみで、用例もない。和製漢語と判断されるが、中国に逆輸入された形跡もないのであろうか。稿者の周辺の大学院留学生に確認したが、すくなくとも、現代中国語では使用されないということであった。

0.4 関連事項

国内においては、上記『日本国語大辞典』二版により、当面、田口卯吉の記述が最初の使用例であるとみなされるが、それ以上の、「都度」に関する詳細な言及を、稿者は得ていない。

なお、『新潮国語辞典』（改訂版1982）は「つど」の用例として『好色五人女』の「はじめよりのことどもをつどつどに語りければ」の例を示すが、『日本国語大辞典』では、「つどつど（に）」を1語とし、「一つ一つくわしく」と説明する。『好色五人女』の例は、この意味のほうが理解しやすいと考えられる。

また、「都度都度」を宛て得る「つどつど」であれば、『和英語林集成』（初版1867）に

T S ZDO-TSZDO、度度,adv.Each time,every time. Syn.Goto-ni.

とある。二版、三版では、見出しが“TSUDO-TSUDO”となり、三版では、Synに、TOKI-DOKIが追加される。

当面、対象とするのは、単独の「都度」であり、これ以上の追究は断念せざるをえない。

1. 現代の用法―「朝日新聞」データベースによる

稿者の、(1)(2)(3)に対する違和感の根拠は、日常、接することの多い新聞の用法である。

そこで、「朝日新聞」検索システム『聞蔵』で、2012年9月から2013年8月まで、1年間の「都度」を確認したが、そこには副詞的用法の「都度」は発見できなかった。大半は「その都度」であり、それ以外の修飾語を伴う例は少ない。以下、東京本社版により、上記(4)のほかの例を示す。

- (12) 首相秘書官だった森内閣では、「神の国」発言などトラブルが相次いだ。その都度、午前3時に官邸入りし、国会答弁を書いた。 (2013.3.14 朝刊2面 ひと)

- (13) トークショーでは、司会の檀れいさんが、八千草薫さんら登壇者5人それぞれについて「同期の人～」と聞いていくと、その都度、会場から「ハイ」と手が挙がった。

(2013.7.17 夕刊1面 宝塚音楽学校記念式典)

「その」以外の修飾語を伴う、少数派に属する例を示す。

- (14) 「愛しい者が失われる」とは、相手が目の前にいてくれても、相手のことを気に入らないと感じる都度に生じている現象なのです。〈略〉不都合なことが生じる都度、いわば「愛しい相手」は死んで、「嫌な相手」として生まれ変わっているのです。おやまあ。

(2013.7.4 夕刊be木曜2面 小池龍之介の心を保つお稽古)

そして、本稿のテーマである「副詞的用法」の単独の「都度」は確認できなかった。

新聞の用例に依存する方法について、新野直哉(2011)は

新聞記事の調査結果をもってその時代の日本語の状況を把握しようとするのは危険を伴うといえる。

と警鐘を鳴らす。それを意識しつつ、この「副詞的用法」の単独の「都度」は、「朝日新聞」では2012年9月からの1年間に限れば確認できず、多用されるものではないと判断したい。

しかし、稿者がこの問題に気づいた2012年末以前の状況・・・インターネット上ではその時点での存在を確認できる・・・を知るために、再度『聞蔵』で、2011年1月から2012年6月までの18ヵ月分を検索したところ、用例があった。

(15)は稿者が掲載された時点で見落としていた例、(16)は地方版であるため見ていなかった例である。

- (15) 法人税を納める義務がないNHKが〈略〉集める受信料収入は、昨年度は過去最高の6698億円。使途を都度チェックすることは受信料を負担する視聴者の権利であり、義務でもある。(文化くらし報道部 星野学「記者有論」2011.10.8 朝刊14面)

- (16) あくまでも芸は一期一会。演者と同じ時と空間を共有するところに、都度の感激が生まれる。(芸能史研究家 前田憲司「没後12年 枝雀落語会大盛況」

2011.3.12 三重全県版朝刊12面)

たしかに、これら2例は存在した。しかし、この2例は、検索したすべての「都度」・・・18ヵ月平均で、地方版を含めて、ほぼ2日に1回の出現率である・・・の1%にも満たないのであり、日刊紙としては、まだ一般的な用法ではないといえるであろう。0.3.3で示した『明鏡国語辞典』第二版の判断は、この限りでは、妥当である。

ただし、今後、0.2.2のCiniiの状況に鑑み、「朝日新聞」をはじめとする日刊紙や、その他の分野での使用実態を検証し、「都度」の変容を明らかにする必要に迫られたことになる。

2. 20世紀までの用法

2.1 雑誌『太陽』のばあい―「ひまわり」検索システムによる

『日本国語大辞典』によれば「都度」は1882年には存在していたので、その後を追跡することは可能であろう。

「ひまわり」検索システムによれば、「都度」の文字列が40例ある。そして単独の「都度」はない。「其」「その」を伴う例が多く29例を占める。72.5%である。

- (17) 一日本銀行より右消却紙幣を上納したときは大藏省に於て此條例大五十一條の手續に従ひ之を焼捨て其都度之を公告すべし

(1895年02号 「商業」)

- (18) 龍馬は薩摩及び長崎に往來し、その都度、必らず下關に滞在して、長州人と會見した。

(横山健堂「下関海峡に於ける坂本竜馬」1925年13号)

しかし、それ以外の修飾語を伴うものが11例あり、27.5%になる。現在の状況とは、若干、異なるのではないか。このことは、3.1で触れる。

- (19) 海外需要地の實況を探り彼我貿易上の得失を考究し必要の都度報告書を發行して會員に頒布す

(1995年05号 「社交案内」)

2.2 1900年前後の文学作品における状況

『新潮の100冊 CD-Rom版』がしばしば検索対象とされるが、そこに採録されない文学作品についても概観する。

雑誌『太陽』には、次の(20)(21)のような文学作品も採録されているが、「都度」は和製ながら漢語であり、上記(17)(19)に類する、「堅い」文章中の用例のほうが多いといえる。

- (20) 其美しい聲、其清らなる音、一絃一聲、其都度腦髓にピン～～と響いて、其響くのは俗塵が汚れたる我身から去るの響きではあるまいかと思はれる程。

(江見水蔭『朝顔』1895年9号)

- (21) 然し砲火の閃光と破裂彈の光とは、其都度四下の物象を照して、自らの心をして寒からしめる(嵯峨の屋おむろ訳『セバストウポルの火花』・原作トルストイ 1901年5号)

上記(20)(21)に加えて、「青空文庫」の文学作品における「都度」を調査した。稿者は現時点では底本などを確認しておらず、検索システムに依存した段階での調査結果である。

はじめに泉鏡花『婦系図』(1907)の例を示す。「都度」は1例、「～するごとに」「～するたびに」が1例ずつある。

- (22) 礼之進は提革に掴りながら、人と、車の動揺の都度、なるべく操りのポンチたらざる態度を保って〈略・稿者注・電車内の描写〉
- (23) 時々病人の部屋が寂とするごとに〈略〉
- (24) 微笑みながら擦り寄るたびに、たじたじと退って、やがて次の間へ、もそりと出る。

ついで、作品数の多い夏目漱石についても確認する。むろん、「都度」を使用するが、作品によっては、「たびに」が多用されることもある。以下、『彼岸過迄』1912年の3例を示す。

- (25) 敬太郎は手紙を畳んで机の抽出へ入れたなり、主人夫婦へは森本 の 消息について、何事も語らなかつた。洋杖は依然として、傘入の中に差さつていた。敬太郎は出入の都度、それを見るたびに一種妙な感に打たれた。
- (26) 「高木はどうしたろう」という問が僕の口元までしばしば出た。けれども単なる消息の興味以外に、何かためにする不純なものが自分を前に押し出すので、その都度卑怯だと遠くで罵られるためか、つい聞くのをいさぎよしとしなくなった。
- (27) 僕の方ではその都度彼に対するこっちの相場が下落して行くような屈辱を感ずるのが例であつた。僕はすぐ自分の言葉を訂正しにかかつた。

そして、「たびに」が25例ある。そのうちの1例のみ示す。

- (28) その足袋の紐の先には丸い房がついていて、それが小さいな足を運ぶたびにぱっぱつと飛んだ。

また、『それから』（1909年）は「都度」は1例だが、「たびに」16例、「たび毎に」2例がある。

- (29) 又最後には今日の如くアンニユイの結果として来る事もあるが、其都度彼は同じ結論に到着した。
- (30) だから、代助は今日迄、自分の脳裏に願望、嗜欲が起るたび毎に、是等の願望嗜欲を遂行するのを自己の目的として存在してゐた。
- (31) あらゆる美の種類に接触して、其たび毎に、甲から乙に氣を移し、乙から丙に心を動かさぬものは、感受性に乏しい無鑑賞家であると断定した。

『門』（1910年）では3例あつたが、「たびに」17例に比すれば、少数派である。以下その3例と、「たびに」1例を示す。「たび毎に」はない。

- (32) そう云われると、宗助も叔父の処置に一理あるようにも思われて、口では、「そのつ
もりが好くないじゃないか」と答弁するようなものの、この問題はその都度しだいしだ
いに背景の奥に遠ざかって行くのであった。
- (33) 宗助が東京へ来た当座は、時々これに類似の質問を御米から受けて、その都度慰める
のにだいぶ骨の折れた事もあったが、近来は全く忘れたように何も云わなくなったの
で、宗助もつい気に留めなかったのである。
- (34) 「せっかく親爺の記念だと思って、取って来たようなものの、しょうがないねこれじ
ゃ、場塞げで」と零した事も一二度あった。その都度御米は真丸な縁の焼けた銀の月と、
絹地からほとんど区別できないような穂芒の色を眺めて、こんなものを珍重する人の気
が知れないと云うような見えをした。
- (35) 宗助は弟を見るたびに、昔の自分が再び蘇生して、自分の眼の前に活動しているよう
な気がしてならなかった。

『行人』(1912年)では「都度」1例、「たびに」27例がある。「たび毎」「たびごと」
はなく、やはり「たびに」優勢である。

『虞美人草』『明暗』には、「都度」はない。

夏目漱石にとって、「都度」は使用語彙ではあるが、「たびに」などに比して、使用
頻度の高いものではなかった……むろん、読者を意識してのことでもあろうが……
と考えたい。

このことは、現代語でもいえる。低年齢の幼児や児童が「都度」を多用することはない。
「いつでも」「～するときはずっと」などを使う。「都度」は、どちらかといえば、「堅い」、連
絡、指示などの場面で使用されるのではないだろうか。
森鷗外についてもふれておく。

『青年』(1910～1911)は「都度」がなく、「～度毎に」3例、「～度に」7例がある。

- (36) 「哲学が幾度建設せられても、その度毎に破壊せられるように、新人も積極的になっ
て、何物かを建設したら、又その何物かに捕われるのではないでしょうか」
- (37) 障子はこの似つかわしい二人を狭い一間に押し籠めて、外界との縁を断ってしまった。
しかしこういう事はこれが始めではない。今までも度々あって、その度毎に純一は
胸を躍らせたのである。
- (38) 社会のあらゆる方面は、相接触する機会のある度に、容赦なく純一の illusion を打破
してくれる『高瀬舟』(1916)も「都度」はなく、「たびに」「たびごとに」が1例ずつ
あった。
- (39) 息をいたすたびに、傷口でひゅうひゅうという音がいたすだけでございます。わたく
しにはどうも様子がわかりませんので、『どうしたのだい、血を吐いたのかい』と言っ

- て、そばへ寄ろうといたすと、弟は右の手を床に突いて、少しからだを起こしました。
- (40) 喜助の話はよく条理が立っている。ほとんど条理が立ち過ぎていると言ってもいいくらいである。これは半年ほどの間、当時の事を幾たびも思い浮かべてみたのと、役場で問われ、町奉行所で調べられるそのたびごとに、注意に注意を加えてさらってみさせられたのとのためである。

このように見てくると、1900年前後に、「都度」は文学作品にも使用されていたが、「たびに」「たびごとに」などの方が優勢だったと考えられる。

2.3 20世紀までの状況

2.1、2.2から、19世紀後半までには使用されるようになっていた「都度」は、その後も途絶えることなく、定着はしていた。しかし、急激に勢力を持つには至らず、「ひそかなる力」を蓄えていたものと考えたい。

その際、「その都度」のごとく修飾語を伴うことが通例であったものが、1990年に至って、単独の副詞的用法を獲得していたことが、0.2.2 Ciniiの状況の用例(8)から分かる。

3 まとめ

3.1 「その都度」への傾斜

3.1.1 文学作品での「都度」

『新潮の100冊 CD-Rom版』は、『たけくらべ』(1896年)から、『女社長に乾杯』(1982年)までの、翻訳を含めた100作品から成るが、この中の計29作品から、「つど」60例、「都度」24例を確認した。ここでは、83例が「そのつど／都度」であり、1例が

- (41) 彼女の居間の敷居をまたぐ都度、わたしは思わず知らず、幸福のおののきに総身が震えるのであった。(神西清訳『はつ恋』・原作ツルゲーネフ 1952年)

である。

すなわち、文学作品に限れば、「都度」はほとんどの場合、「その」と共起していたと考えられる。

この「その都度」への傾斜は、わずかながら、「朝日新聞」でも認められそうである。

3.1.2 『聞蔵』による調査

1984年8月から1985年7月までの1年間について、本文全体の検索を行った。東京本社版では、1週間に1回程度の出現率であった。この中で、「その都度」は86%を占めるが、「～の都度」も14%あった。

- (42) 今回の証券懇は、各社の代表を副社がつとめ、事務局は四社の持ち回りとする。業界

問題がある都度、会合を持ち、大手四社としての意見を調整するほか、声明や提言をまとめることもある。 (『証券懇話会』旗揚げ1984.10.5 朝刊9面)

しかしながら・・・単純比較は危険だが・・・『太陽』での27.5%からは激減している。

さらに下って、1で単独の「都度」を確認できた、2011年1月から2012年6月の18ヵ月分・・・地方版を含めて、ほぼ、2日に1回の出現率である・・・で調査したところ、「～の都度」の占める度合いは一段と減少しており、5.8%にしかない。「その都度」の率が上昇していたのである。「その都度」は、緩やかながら固定化してきているのではないか。

3.2 漢語と副詞

3.2.1 「正直」「結果」の副詞的用法について

「正直」「結果」の副詞的用法については、『日本国語大辞典二版』に記述がある。また、『広辞苑六版』(2008)もそれぞれの、副詞的用法を認めている。

「正直」は『日本国語大辞典』が、人情本『英対暖語』(1838)の例を示すように、19世紀にまで遡れる。雑誌『太陽』からも

(43) 此間幸手在の豪農から五百兩の持参で嫁を貰へといふ口がありましたので正直此所へ五百兩といふ金画這入れば至極都合でござい升から・・・以下略・・・

(条野採菊「涙の媒介」1895)

などが確認できる。

現在でも、この用法は広く認められ、「朝日新聞」の用例を示すことは容易である。口頭語としては、「正直なところ／にいえば」や「結果として」などは、冗長だとの判断によるのか、「正直」「結果」のみで通用するからか、若年層に限らず、避けられる傾向にある。

(44) 〈稿者注：高校生時代、テストのカンニング協力を懇願した女生徒に〉「なぜそんなことをする必要があるの」とビシヤリとはねつけられた。結果、お情け卒業は出来たものの、苦い思い出が残った。

(男のひといき「同じクラスの女生徒」 2013.8.18 朝刊33面)

3.2.2 「原則」のばあい

これらとともに、近年、「原則」も、上記2書には言及されないが、単独で副詞的用法を確立していると考えられる。稿者は「原則として」「原則は」とするが、副詞「原則」は、口頭語以外にも使用される。(45)(46)は「朝日新聞」、(47)はメガバンクといわれる都市銀行のパンプレットの例である。

(45) 一番遅い時刻は午後10時49分(6月4日)。原則、飛行できない時間帯だ。

（「沖縄 痛みの空」 2013.8.4 朝刊2面）

- (46) ファインプレーとミスが紙一重のところにあるのが高校野球の魅力かな。原則、スポーツ小説では高校生以下は題材にしない。

（堂場瞬一「2013観戦記」2013.8.16 15面）

- (47) 平成25年10月21日（月）より当行ATMの営業時間を原則7：00～24：00に延長します。

3.3 推論

このように、いくつかの漢語が、副詞的用法を獲得してきている。その例にならって、以下の4点を指摘したい。

すなわち、19世紀後半には確認可能で、今日まで使用され続ける「都度」は、

- ① 慣習として「その」をはじめとする修飾語を伴うのが通例であったが、まず、一般的な修飾語が減少し、「その都度」のかたちが大半となって、固定表現化した。
- ② さらに、一部では、多用される「その」を省略し、「都度」だけで「毎回」と同義の、副詞的用法を獲得するにいたった。すくなくとも、1990年には存在している。
- ③ この用法の今後については判断できないが、「正直」「結果」「原則」などと同じ経過をたどることも想定できる。
- ④ しいていえば、「正直」「結果」「原則」は後接要素を省略して副詞化するのであるが、「都度」は、前接の要素・・・近年は大半が「その」であった・・・を省略して副詞化していくことになる。

本稿は、稿者の違和感を出発点とし、インターネット上の「違和感」がある旨の発言や『明鏡国語辞典』第二版の記述に触発されたものであり、関連する諸事項についての精査を経てはいない。

今後、「都度」の周辺を観察しつつ、不備を補いたい。

【参考文献】

新野直哉（2011）『現代日本語における進行中の変化の研究—「誤用」「気づかない変化」を中心に』

ひつじ書房

【追記】

成稿後、会議の席で、ふたたび、副詞的用法の「都度」に接することがあった。冒頭の用例(1)から7ヶ月以上を経過して、確認しえた例である。

(48) 「(指導の必要な学生については) 先生方から、都度、聞いてはいたけれど〈略〉」

(2013.10.18 大学における会議の発言：管理職女性)

発話者は、稿者(1946年生まれ)より年長である。

そしてまた、NHKテレビ「政治討論会」でも以下の発言があった。

(49) 「(消費税について) 私たちも都度、いろいろな場面で、議論を〈略〉」

(2013.10.27 発言者：玉城デニー・「生活の党」衆議院議員)

発話者は、1959年生まれであり、「若年層」などではない。

(48)(49)の事例に接し、これらの発話者の年齢や発話状況を考えれば、もはや、副詞的用法の「都度」の「ひそかなる力」を、無視することはできないのであろう。

本稿の起点となった稿者の違和感、ネット上の「黒tobiの黒々日記」の示した違和感、そして『明鏡国語辞典』第二版の指摘も、それぞれの時点や状況では、それなりの妥当性はあったにせよ、時間経過とともに、「過去の視点」となる可能性を否定できないのではないかと、現時点では考えている。

(平成25年11月6日受理)